

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 エネルギー-価格の上昇が続くもコア物価の安定継続 (05年10月生産者物価)

発表日: 05年11月15日(火)

~ 目先、生産者物価コアへの上昇圧力は徐々に強まる公算 ~

(No. UI - 146)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

	生産者物価 (Producer Price Indexes)											
	最終財		コア		エネルギー		中間財		原材料		<参考> 輸入物価	
04/10	+1.5	(+4.5)	+0.3	(+1.8)	+5.7	+1.0	+0.5	+4.3	+4.3	+0.1	53.2	
04/11	+0.7	(+5.0)	+0.3	(+2.0)	+2.7	+0.8	+0.3	+7.6	+3.1	+0.9	48.5	
04/12	0.3	(+4.2)	+0.2	(+2.3)	2.4	+0.1	+0.4	3.1	1.4	+0.4	43.3	
05/01	+0.1	(+4.1)	+0.7	(+2.6)	1.0	+0.3	+0.7	2.0	2.5	+0.3	46.9	
05/02	+0.4	(+4.7)	0.1	(+2.6)	+1.8	+0.6	+0.5	1.0	2.9	+0.1	48.1	
05/03	+0.8	(+5.0)	+0.2	(+2.6)	+3.3	+1.0	+0.3	+4.7	0.3	+0.3	54.6	
05/04	+0.5	(+4.8)	+0.3	(+2.6)	+1.8	+0.7	+0.1	+2.6	+2.1	+0.4	53.0	
05/05	0.5	(+3.6)	+0.3	(+2.8)	3.3	0.7	0.3	3.1	3.0	0.2	50.0	
05/06	+0.0	(+3.7)	0.2	(+2.4)	+1.8	+0.3	0.1	1.9	3.7	0.2	56.4	
05/07	+0.9	(+4.6)	+0.3	(+2.8)	+4.3	+0.9	0.1	+5.9	+1.3	0.2	58.9	
05/08	+0.6	(+5.1)	+0.0	(+2.4)	+3.7	+0.7	0.1	+2.3	+4.6	+0.1	65.0	
05/09	+1.9	(+6.9)	+0.3	(+2.6)	+7.1	+2.5	+1.2	+10.2	+5.3	+1.0	65.5	
05/10	+0.7	(+5.9)	0.3	(+1.9)	+4.1	+3.0	+1.2	+6.7	1.2	+0.8	62.3	

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

コアが前月比

0.3%と市場予想
を下回った

05年10月の生産者物価(最終財)は、エネルギーの上昇によって前月比+0.7%と市場予想の同+0.0%を上回った。一方、変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、資本財、消費財の下落等によって同-0.3%と市場予想の同+0.2%上昇に反し低下した。また、基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で見ると、中間財(コア)が+4.2%(9月同-0.4%)とプラスに転じたが、遅れて影響を受ける最終財(コア)が同+0.9%(同+1.5%)と3ヵ月連続で低い伸びにとどまっている。このように、生産者段階では川上の物価上昇圧力が強まっているものの、競争圧力の激化や生産性の向上等によって川下への波及は限定的なものにとどまっている。

資本財、消費財コ
アは共に前月から
下落

最終財のカテゴリー別の動向をみると、食品関連では野菜や卵、フルーツ、豚肉の低下によって、食品価格は前月比-1.4%(9月同+1.4%)とマイナスに転じた。エネルギーは前月比+4.1%(9月同+7.1%)とプラス幅が縮小した。ヒーティングオイルが同+12.3%(同+4.8%)、天然ガスが同+12.7%(同+9.0%)と加速したものの、ガソリンが同-3.3%(同+12.7%)と下落した。

消費財(エネルギー・食料品を除く)では、宝石・プラチナ・金が前月比+0.9%と高い伸びが続き、定期発行誌が同+0.7%(同+0.3%)と加速した。一方、乗用車が同-3.0%(同+0.9%)、家電が同-0.6%(同+0.0%)、ガラスが同-0.1%(同+0.2%)、フロアカーペットが同-0.5%(同+1.2%)、男性物アパレルが同-0.9%(同+0.2%)、女性物アパレルが同-0.7%(同+1.1%)と下落したため、消費財(エネルギー・食料品を除く)は同-0.2%(同+0.2%)とマイナスに転じた。

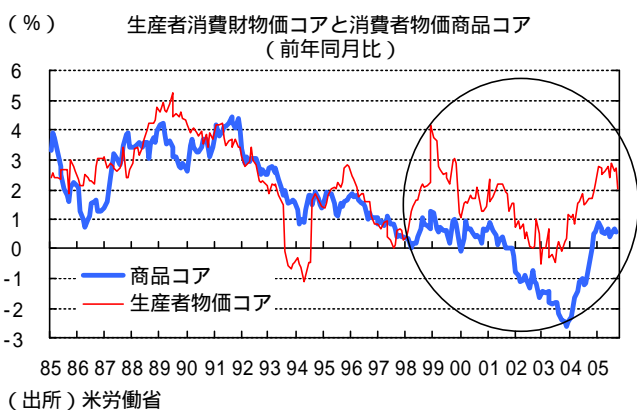
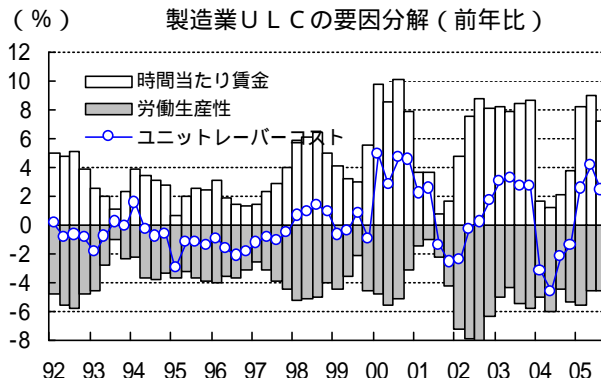
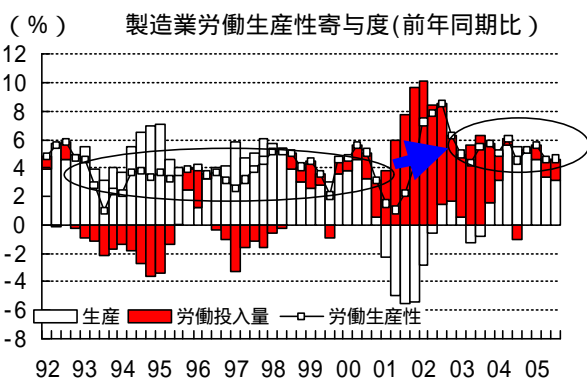
他方、資本財では、繊維機械が前月比+2.2%(9月同-0.2%)、建設機械・機器が同

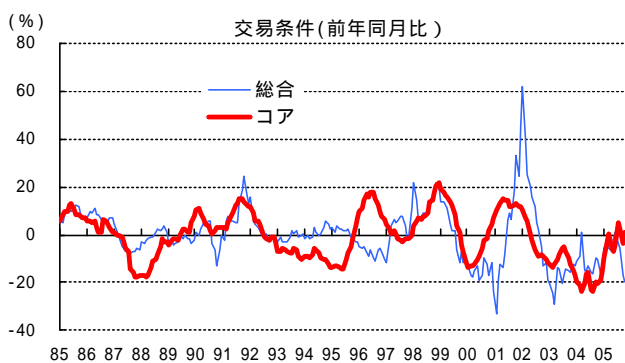
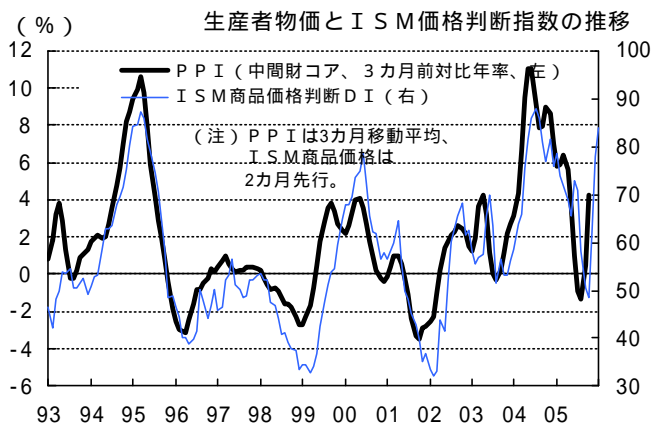
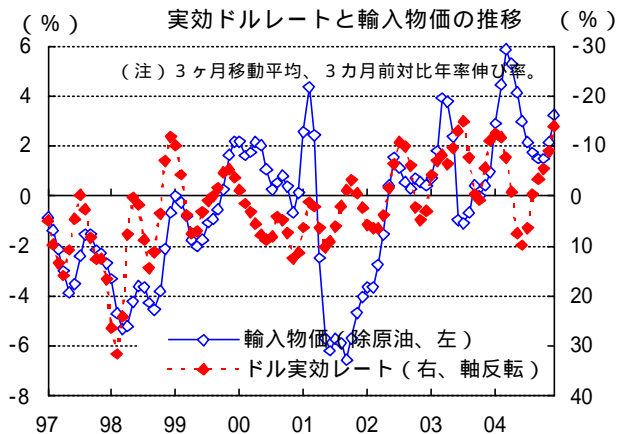
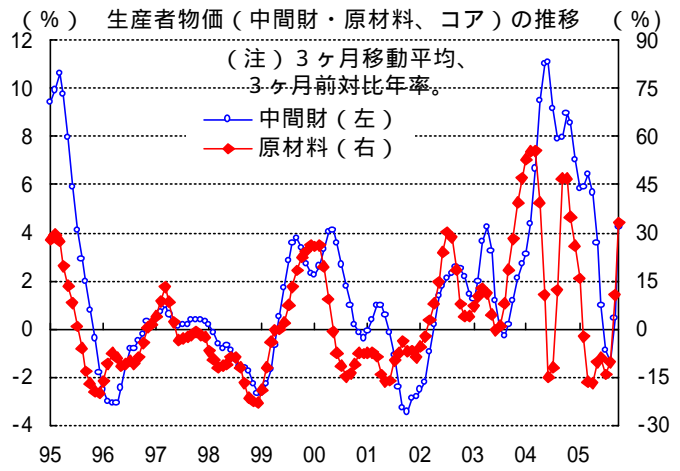
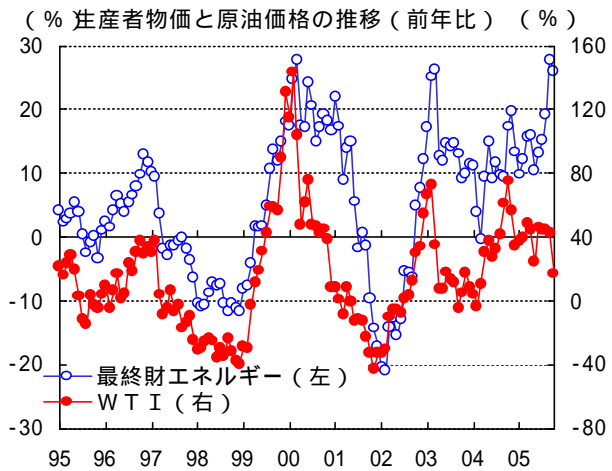
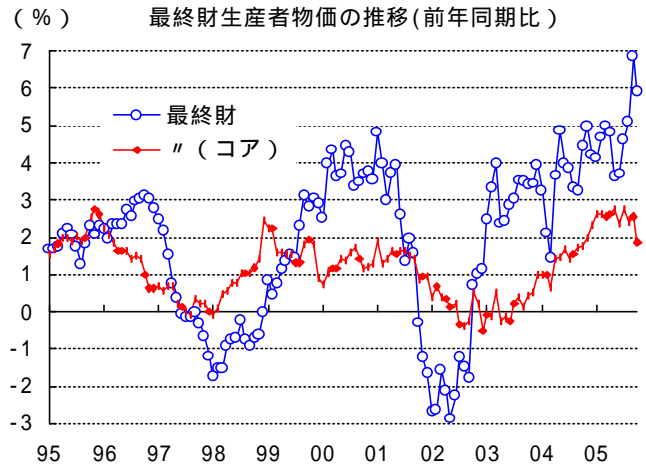
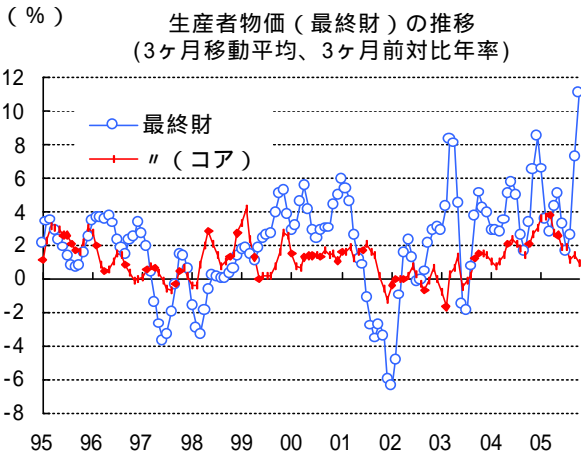
+0.2% (同 0.1%)、大型トレーラーが同+0.2% (同 0.5%)と上昇に転じた。さらに、民間航空機が同+0.6% (同+0.2%)、通信機器が同+0.1% (同0.0%)と加速した。品質向上や値引きが続くコンピューターが同 1.5% (同 2.5%)、X線・電子医療機器が同 0.5% (同 0.7%)と下落幅が縮小した。一方、大型トラックが同+0.4% (同+1.0%)と鈍化、軽トラックが同 2.2% (同+0.5%)、変換・発電機が同 0.1% (同+1.5%)、掘削機械設備が同 0.5% (同+0.2%)、鉄道設備が同 0.1% (同+0.7%)とマイナスに転じたことから、資本財全体でも同 0.2% (同+0.3%)と下落した。

生産者物価(最終財)コアは前月比で緩やかな上昇になる見込み

今後に関しては、川上でのインフレ圧力を示す原材料(コア)が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で10月に+33.1%(9月+10.6%)とプラス幅が拡大したこと、中間財(コア)に2ヵ月程度先行する仕入価格指数(ISM製造業景気指数)が急上昇していることから、インフレ圧力は再び強まっている。さらに、世界的な景気拡大持続に伴う供給不足懸念を背景にエネルギー価格の高止まり、或いは上昇が続き、商品価格も高止まりする可能性がある。このため、原材料価格(コア)、中間財コアでは上昇圧力が強まると見込まれる。

しかし、製造業では売上の増加による数量効果、情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価(最終財)コアは前期比で緩やかな上昇にとどまろう。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。